

「営団地下鉄土木技術者の記録」を制作して～地下鉄技術者の証言記録を遺す～

東京地下鉄(株) 正会員 平野 隆
東京地下鉄(株) ○東山 裕亮

1. 背景と目的

東京地下鉄(株) (以下「東京メトロ」) では、平成 20 年 6 月の副都心線開業をもって、新線建設に一応の収束をみた。昭和 26 年(1951 年)に丸ノ内線の建設に着手して以来、約 66 年間に先輩方が蓄積してきた技術やノウハウは建設史や示方書類、標準図等となって現在も脈々と生きているが、これらに記録しきれずに個人の記憶の中に留められた事柄は口伝で遺されているものもあり、これらを活字化して未来に伝えていくことの大切さを常々感じていた。

年々先輩方の高齢化も進み、櫛の歯が抜けるように一人、また一人と亡くなられる方が増えていく中、営団地下鉄建設本部元副本部長の中村信義氏が亡くなられた後に御子息から「我が人生の思い出の記」と題する御遺稿を頂戴した。

その内容には技術的にも歴史的にも価値の高いものが多数あり、系統立てた記録としてアーカイブするとともに、補足説明を加えて東京メトロ社内の土木技術者育成のための教材として書籍化すべく「営団地下鉄土木技術者の記録」として昨年から編集作業に着手した。(図-1)

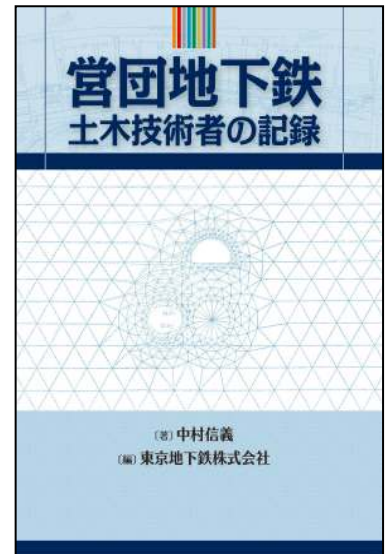


図-1 書籍の表紙

2. 関連する資料の収集と補足説明の作成

氏の遺した原稿には丸ノ内線建設時代から南北線の工事に至る約 40 年間に経験された、計画、設計、工事の内容が年代順に散りばめられており、それぞれの事柄の全体像を捉えて補足すべき概要を作成することから始めることとした。

記述された事柄の全体像を捉えるための調査は、本来の正史である建設史はもとより過去に発表した文献の読み込みや、当時関係した先輩方への聞き取りなどを実施するとともに、御子息から提供を受けた写真や御本人の記述などの分析を行なった。(図-2)

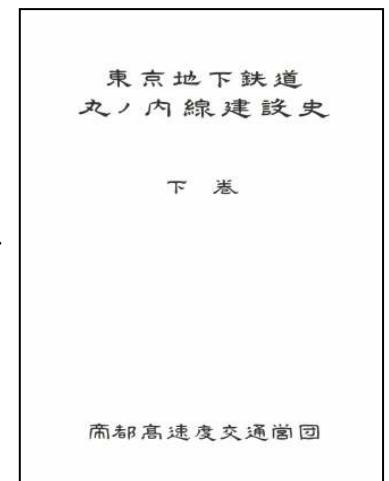


図-2 本来の正史である建設史

文献調査では土木学会が発行する文献集を始め、協会誌や雑誌など幅広い内容を網羅するため、それぞれの出版元に協力を求めて収集のうえ、御本人の遺された記述と併せて補足説明を作成し、本書に収録すべき文献は中村氏の執筆稿から選択することとした。(図-3)

御子息から提供を受けた写真は、各線建設途上の記録として貴重なものが多く、撮影場所の特定や時期などを考察して御遺稿との整合を図った。(図-4)



図-3 文献調査で収集した執筆稿

3. 紙面構成の検討

本書は後進の育成を図るための材料として活用できるものとするのが前提であり、今回掲載する内容は昭和 30 年代から平成までの約 40 年間に亘るため、御遺稿に書かれた内容とその当時の時代背景や書かれている事柄の全体像が解るものとしたいと考えた。

御遺稿そのものの再構成も考えたが、やはり御本人が書かれたものは生の記録としてそのまま掲載することが大切であるとの意見も多く、御遺稿の記述に続いてそれぞれの補足説明や写真を加える形式を採用することとした。

キーワード 土木史、地下鉄建設、技術伝承、アーカイブ

連絡先 〒110-8614 東京都台東区東上野 3-19-6 東京地下鉄(株) 改良建設部 TEL03-3837-7132

4. 編集作業

当初、本書は収集文献も含めた全体で 100 ページ程度の書籍として計画していたが、紙面構成を検討する段階で御遺稿に加えて補足説明と写真を入れて、更に生前御本人が携わった路線をたどり、御自身で撮影した写真とともにコメントされた内容も非常に味があり捨てがたく、これらも入れて本文を約 80 ページ、執筆稿を約 50 ページとして 130 ページあまりの書籍とすることとなった。

内容は時代順に当時の所属や職名ごとにまとめ、御本人の直筆原稿とそれに関係する写真を加え、その後に補足説明として路線や当該箇所の図面や写真、概要文を入れていく形式で統一した。(図-5, 6)

また、全体の構成を解りやすくするため、年譜を作成して巻頭に掲載し、営団地下鉄路線の建設年次と御本人の携わった業務との関係を明確化した。(図-7)

この結果、建設当時の事情や氏の携わった路線や場所の全体像を解りやすく構成することができた。デザインについては、各路線のラインカラーをベースに各章ごとに統一感を持たせて一般の工学書のような堅さを払拭し、誰でもが読みやすく親しみやすいものとなるように努めた。

5. 発行とその評価

本書は 2017 年 2 月に発行し、現役社員と一部OBおよび学協会などに配布した。現役社員からは、初めて知る内容に感嘆の声が上がるとともに土木技術に対する興味が増して事例から学ぶことの大切さを知ったとの感想が聞かれた。OBの先輩方からは、内容の充実度にお褒めの言葉を頂くと同時に皆様方が携わってきた業務を振り返り、後進に伝えていきたいとお言葉を頂いている。学協会関係者からも、建設史などの正史に比べて読みやすく親しみやすいことに加えて、正史には記録されない人間的な部分が感じられる貴重な歴史の証言記録であるという評価を頂いた。

6. おわりに

今回の作業を通じて学んだことは、過去の歴史を後進に遺すことの大切さはもちろん、地下鉄の建設、ひいては土木に携わる人と人の繋がりの大切さであった。最新技術のみに目を向けることが多い今日この頃であるが、過去の建設技術を振り返ることが、新たな技術を生み出すことに繋がるということを知ったというのが率直な感想である。現在、今回の成果を踏まえて次の「営団地下鉄土木技術者の記録」を計画中であり、先輩方に執筆を依頼しながら、更に範囲を広げて口述筆記などの方法も含めて記録を遺していきたいと考えている。最後になったが、今回の企画に多大な御協力を賜った中村信義氏の御子息である前田建設工業の中村隆司氏と、企画に対して御理解を頂きたくさんのお力添えを頂いた営団OBの大門信之氏に深く感謝を申し上げ筆をおくこととしたい。



図-4 提供を受けた写真
(桁架設中の東西線荒川・中川橋梁)



図-5 御遺稿編集イメージ

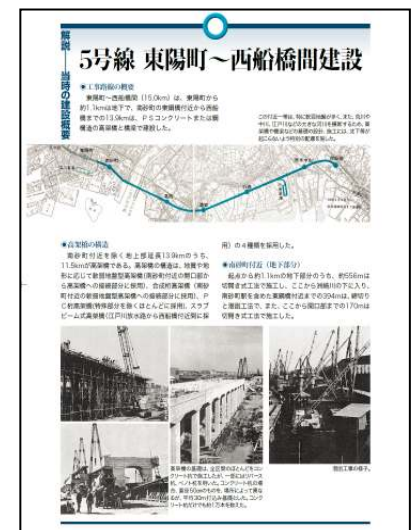


図-6 補足説明イメージ

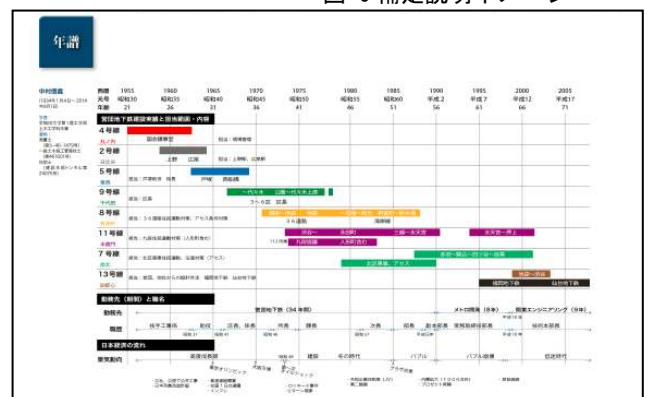


図-7 巻頭に掲載した年譜